

佐賀・牟田口遺跡



(佐賀)

牟田口遺跡は標高3m程の沖積低地に立地する遺跡で、巨勢川や黒川、市ノ江川の合流する地点にある。佐賀導水事業に伴う発掘調査を一九九九年から二〇〇一年にかけて実施した。遺跡は鎌倉時代から近世までの複合遺跡であるが、その主体となるものは、鎌倉時代から室町時代までの集落跡である。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「

天正元年九月廿九日急々如□□〔律令カ〕

234×71×5 011

検出した遺構は、掘立柱建物、井戸、土坑、溝などである。

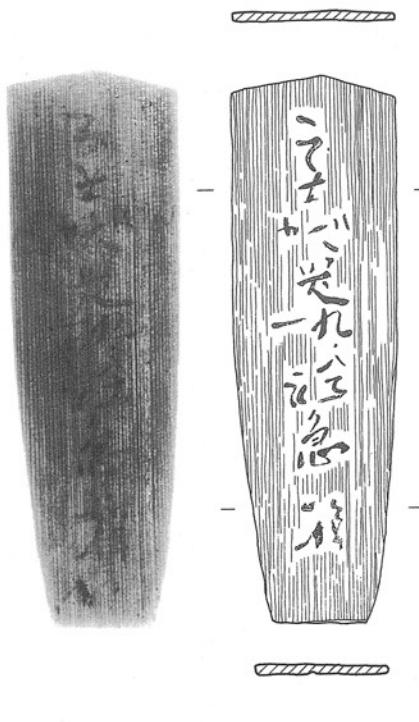
1 所在地 佐賀市金立町大字薬師丸字牟田口
2 調査期間 二区 二〇〇〇年(平12)一〇月～一〇〇一年一月
3 発掘機関 佐賀市教育委員会
4 調査担当者 楠本正士・三代俊幸・中野充
5 遺跡の種類 集落跡
6 遺跡の年代 鎌倉時代～近世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

牟田口遺跡は標高3m程の沖積低地に立地する遺跡で、巨勢川や

黒川、市ノ江川の合流する地点にある。佐賀導水事業に伴う発掘調査を一九九九年から二〇〇一年にかけて実施した。遺跡は鎌倉時代から近世までの複合遺跡であるが、その主体となるものは、鎌倉時代から室町時代までの集落跡である。

牟田口遺跡は標高3m程の沖積低地に立地する遺跡で、巨勢川や黒川、市ノ江川の合流する地点にある。佐賀導水事業に伴う発掘調査を一九九九年から二〇〇一年にかけて実施した。遺跡は鎌倉時代から近世までの複合遺跡であるが、その主体となるものは、鎌倉時代から室町時代までの集落跡である。

牟田口遺跡は標高3m程の沖積低地に立地する遺跡で、巨勢川や黒川、市ノ江川の合流する地点にある。佐賀導水事業に伴う発掘調査を一九九九年から二〇〇一年にかけて実施した。遺跡は鎌倉時代から近世までの複合遺跡であるが、その主体となるものは、鎌倉時代から室町時代までの集落跡である。



木簡には、上位から「天定」と上下左右対称に記され、中位には上下対称に「九九八十一」と書かれ、下位には「急々如律令」と思われる墨書きがみられる。形状は、長方形の材の上端を山形に尖らし、下端は平らに仕上げ、側縁左右裾をカットして幅狭に成形している。なお、釈読にあたっては、奈良文化財研究所の渡辺晃宏氏、山本崇氏のご教示を得た。

9 関係文献

佐賀市教育委員会『牟田口遺跡』(佐賀市文化財調査報告書一四〇、

二〇〇三年)

(中野充)

長崎・炉粕町遺跡（長崎奉行所立山役所跡）

所在地 長崎市炉粕町

調査期間 二〇〇三年(平15)四月~六月

発掘機関 長崎県教育委員会

調査担当者 川口洋平・柚木亜貴子・平田賢明

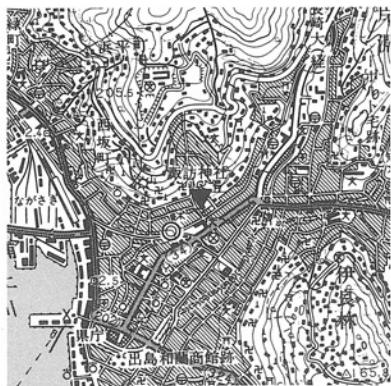
遺跡の種類 奉行所跡

遺跡の年代 近世

遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は長崎市街北部にあり、長崎奉行所立山役所跡の南側に接している。主体となる年代は、一六世紀末から一七世紀前半までで、

銅の精錬に関する炉跡や坩堝などが確認されている。



(長崎)

さらに、長崎奉行所との境付近で幅約五m深さ約一・五mの東西に延びる溝が検出され、木簡を含む多数の木製品が出土した。溝は、確認された位置や出土遺物の内容からみて、長崎奉行